

「知(智)」「仁」「勇」

校長 二瓶 亮

猛暑日と秋の空が同居する中で夏休みが終わり、生徒たちの元気な姿が学校へ戻ってきました。今年はコロナ禍で制限されていたことが解除となり、「4年ぶりに」という言葉が各メディアから聞こえてきました。吹中生にとっても様々な経験が出来た39日間の夏休みだったと思います。

さて、タイトルにある「知(智)」「仁」「勇」ですが、これは中国の思想家「孔子」が「論語」の中で特に中心に据えていた考えといわれています。「知」というのは知性、判断力のこと。「仁」というのは真心があって、誠実であり優しいこと。「勇」というのは勇気、行動力のことです。今も昔も変わらず、人として身に付けたい力です。これらを身に付けるのは簡単なことではありませんが、吹中生には日々の生活の中で、成功や失敗を繰り返しながら仲間と支え合い、協力していく中でぜひ、身に付けてほしい力であると考えます。その良い手本となったのが今年の全国高校野球選手権記念大会を107年ぶりに制した神奈川県代表の慶応高校で、優勝までの軌跡はまさにこの考えが体现されたケースだと感じています(校長個人の感想ですが)。慶応高校はもともと練習も選手自らが考える「エンジョイ・ベースボール」を掲げて全国制覇し、高校野球の常識を変えたと取り組んでいたそうです。そのチームが今春の選抜大会で今回の決勝で対戦した宮城県代表の仙台育英高校に敗れました。負けたことから自分たちの課題を知り「知」、仲間とともに「日本一になる」ために必要なことを考え、思いを一つにして「仁」、勝ちきるための練習を自ら考えて積み重ねることを実践してきた「勇」ことが優勝につながったと感じます。



吹中生には行事の多い2学期も毎日少しずつ成長し続けてほしいことから、「知(智)」「仁」「勇」この3つを意識した生活を送ってほしいと思います。この3つを意識するためのポイントは、「知」はおでこに手を当てる【頭で考える】。「仁」は胸に手を当てる【真心、優しさ】。「勇」はおへその少し下に手を当てる【せい いかたんでん臍下丹田に力を入れる】とよいと言われます。普段の学校生活はもちろん、授業に学校行事に対してこの2学期も吹中生の成長につながる取組を教職員も考えていきます。授業では、生徒が主体的に取り組みたくする課題を設定したり、ICT機器も有効に活用しながら対話的な活動を実践したりすることで、生徒の「見方、考え方を生かした授業」を展開し、生徒の「知」を磨きます。また、学級活動や生徒会活動等で、学級や学年、学校がよりよくなるために必要ことを生徒と教員がともに考え、実行に移して「心」を育て、生徒の「仁」を育みます。さらに、課題解決型学習によって得られた自分の意見・考えを表出し、行動に移す生徒を応援することで生徒の「勇」を培います。

吹中生には2学期も学校という環境を最大限に生かして自らの力で自分の可能性に挑戦してほしいと願います。その時に「知」「仁」「勇」の考えも参考にしてくれたら嬉しいです。

がんばろう、吹中生。昨日よりも今日、今日よりも明日、成長した自分になろう。